



清川天寶神社



高城天寶神社



須賀神社

いにしえの神々のささやきに 耳を澄まして。

みなべ 神 紀行

平成16年7月7日、和歌山県の高野・熊野地域をはじめ、奈良県、三重県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されました。

熊野信仰は平安時代に皇族や貴族たちが秘境熊野に現世浄土を求めたことから始まりました。みなべ町にも登録こそされなかったものの古代の人々が肅々と歩いた熊野参詣道(熊野古道)が通っています。

有間皇子結松記念碑が建つ岩代の地から海岸に沿うように熊野古道を辿ると、熊野詣の旅人が体を休め熊野に向かつて選擇したという王子社や往時をしのぶ風景が残り、いにしえ人のささやきが聞こえてきそうです。

特に、岩代から目津崎に至る、古代から岩代の浜・千里の浜と呼ばれた道は、熊野詣の旅人が長い道中で初めて海辺を歩いた場所です。その喜びの気持ちを映してか、伊勢物語、枕草子、大鏡、新古今和歌集など多くの文献に千里の浜のことが記されています。



千里の浜



神が棲む島 鹿島

熊野古道を辿って国民宿舎

「紀州路みなべ」近くまで歩を進めると、埴田崎の沖あい約500メートルに美しい姿を見せる鹿島。鹿島神社の神域で、古代より神の島と崇められる周囲約1.5キロメートルの島は、見る方向によって三つの鍋を伏せたような形に見えます。みなべの名はその姿に由来しているとも伝えられます。

現在は県立自然公園第1種特別地域に指定され、島の自然や歴史の足跡が大切に保護されています。



鹿島神社



千里王子



三鍋王子



西岩代八幡神社



東岩代八幡神社



岩代王子



熊野古道に往時を偲ぶ



有間皇子結松記念碑